

産業廃棄物焼却施設の構造基準
(規則第12条)

号	構 造 基 準	対 応	
1	自重、積載荷重その他の荷重、地震力及び温度応力に対して構造耐力上安全であること。		
3	産業廃棄物、産業廃棄物の処理に伴い生ずる排ガス及び排水等による腐食を防止するために必要な措置が講じられていること		
4	産業廃棄物の飛散及び悪臭の発散を防止するために必要な構造のものであり、又は必要な設備が設けられていること。		
5	著しい騒音及び振動を発生し、周囲の生活環境を損なわないものであること。		
6	施設から排水を放流する場合は、その水質が生活環境保全上支障が生じないものとするために必要な排水処理設備が設けられていること		
7	産業廃棄物の受け入れ設備及び処理された産業廃棄物の貯留設備は、施設の処理能力に応じ、十分な容量であること。		

産業廃棄物焼却施設の構造基準
(規則第 12 条の 2 を受けた規則第 4 条第 1 項)

号	構 造 基 準	対 応	
7	イ 外気と遮断された状態で、定量ずつ連続的に産業廃棄物を燃焼室に投入することができる供給装置が設けられていること。ただし、環境大臣が定める焼却施設にあつては、この限りでない。		
	ロ 次の要件を備えた燃焼室が設けられていること。 (1) 燃焼ガスの温度が摂氏八百度以上の状態で産業廃棄物を焼却することができるものであること。 (2) 燃焼ガスが、摂氏八百度以上の温度を保ちつつ、二秒以上滞留できるものであること。 (3) 外気と遮断されたものであること。 (4) 燃焼ガスの温度を速やかに(1)に掲げる温度以上にし、及びこれを保つために必要な助燃装置が設けられていること。 (5) 燃焼に必要な量の空気を供給できる設備(供給空気量を調節する機能を有するものに限る。)が設けられていること。		
	ハ 燃焼室中の燃焼ガスの温度を連続的に測定し、かつ、記録するための装置が設けられていること。		

産業廃棄物焼却施設の構造基準

(規則第 12 条の 2 を受けた規則第 4 条第 1 項)

号	構 造 基 準	対 応	
7	ニ 集じん器に流入する燃焼ガスの温度をおおむね摂氏二百度以下に冷却することができる冷却設備が設けられていること。ただし、集じん器内で燃焼ガスの温度を速やかにおおむね摂氏二百度以下に冷却することができる場合にあつては、この限りでない。		
	ホ 集じん器に流入する燃焼ガスの温度（ニのただし書の場合にあつては、集じん器内で冷却された燃焼ガスの温度）を連続的に測定し、かつ、記録するための装置が設けられていること。		
	ヘ 焼却施設の煙突から排出される排ガスによる生活環境保全上の支障が生じないようにすることができる排ガス処理設備（ばいじんを除去する高度の機能を有するものに限る。）が設けられていること。		
	ト 焼却施設の煙突から排出される排ガス中の一酸化炭素の濃度を連続的に測定し、かつ、記録するための装置が設けられていること。		
	チ ばいじんを焼却灰と分離して排出し、貯留することができる灰出し設備及び貯留設備が設けられていること。ただし、当該施設において生じたばいじん及び焼却灰を溶融設備を用いて溶融し、又は焼成設備を用いて焼成する方法により併せて処理する場合は、この限りでない。		

産業廃棄物焼却施設の構造基準

(規則第 12 条の 2 を受けた規則第 4 条第 1 項)

号	構 造 基 準	対 応	
7	リ 次の要件を備えた灰出し設備が設けられていること。		
	(1) ばいじん又は焼却灰が飛散し、及び流出しない構造のものであること。		
	(2) ばいじん又は焼却灰の熔融を行う場合にあっては、次の要件を備えていること。		
	(イ) ばいじん又は焼却灰の温度をその融点以上にすることができるものであること。		
	(ロ) 熔融に伴い生ずる排ガスによる生活環境の保全上の支障が生じないようにすることができる排ガス処理設備等が設けられていること。		
	(3) ばいじん又は焼却灰の焼成を行う場合にあっては、次の要件を備えていること。		
	(イ) 焼成炉中の温度が摂氏千度以上の状態でばいじん又は焼却灰を焼成することができるものであること。		
	(ロ) 焼成炉中の温度を連続的に測定し、かつ、記録するための装置が設けられていること。		
	(ハ) 焼成に伴い生ずる排ガスによる生活環境の保全上の支障が生じないようにすることができる排ガス処理設備等が設けられていること。		
	(4) ばいじん又は焼却灰のセメント固化処理又は薬剤処理を行う場合にあっては、ばいじん又は焼却灰、セメント又は薬剤及び水を均一に混合することができる混練装置が設けられていること。		

産業廃棄物焼却施設の構造基準（規則第12条の2第5項）

号	構 造 基 準	対 応	
1	次の要件を備えた燃焼室が設けられていること。		
	イ 燃焼ガスの温度が摂氏八百度（令第七条第十二号に掲げる施設にあつては、千百度）以上の状態で産業廃棄物を焼却することができるものであること。		
	ロ 燃焼ガスが、摂氏八百度（令第七条第十二号に掲げる施設にあつては、千百度）以上の温度を保ちつつ、二秒以上滞留できるものであること。		
2	令第七条第五号に掲げる施設及び同条第十二号に掲げる施設（廃ポリ塩化ビフェニル等又はポリ塩化ビフェニル処理物の焼却施設に限る。）にあつては、事故時における受入設備からの廃油の流出を防止するために必要な流出防止堤その他の設備が設けられ、かつ、当該施設が設置される床又は地盤面は、廃油が浸透しない材料で築造され、又は被覆されていること。		